

建築と防犯

1. 環境の防犯設計理論

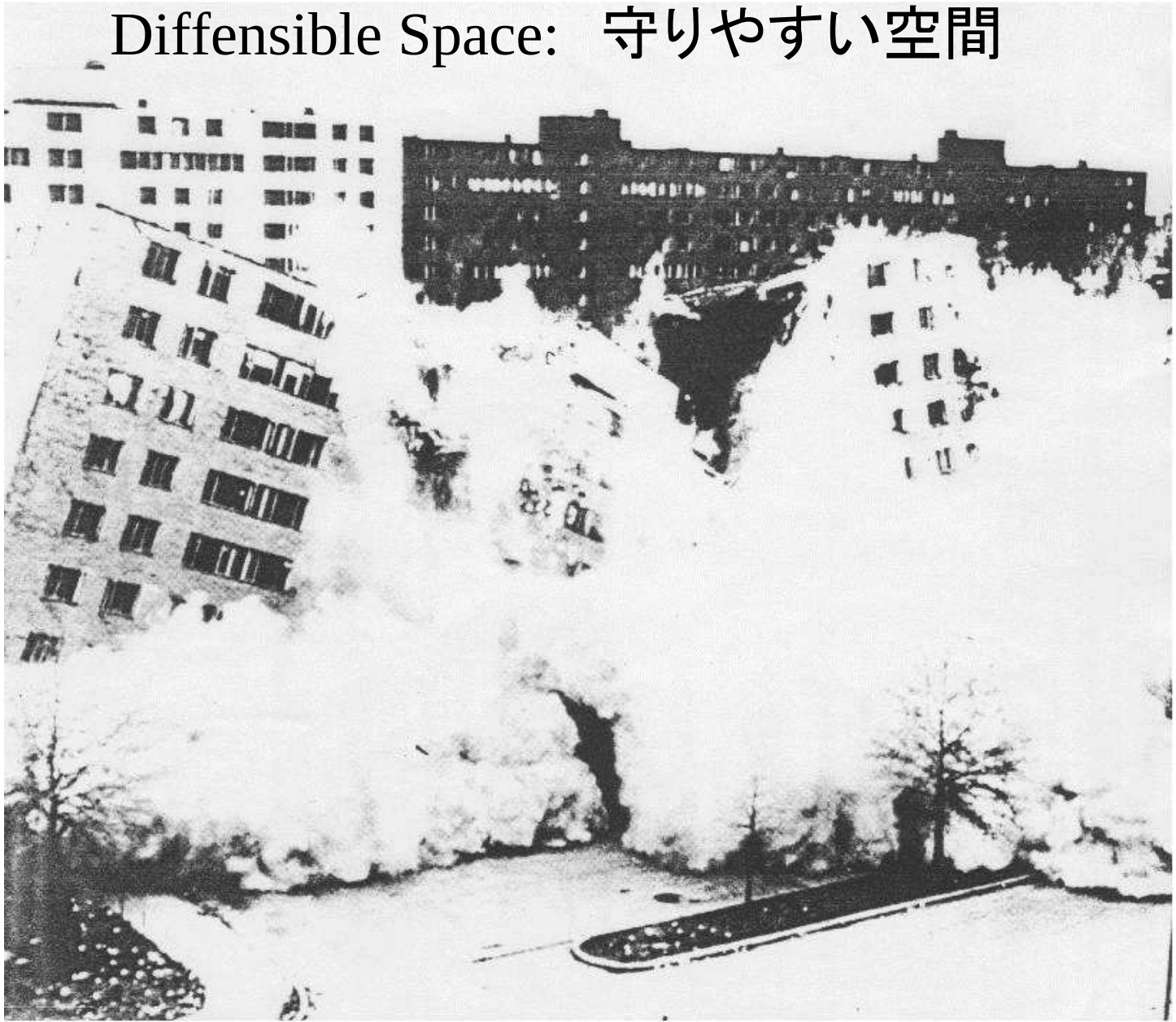
- 1) ニューマン (Newman, 1972)
- 2) ジェfrey (Jeffrey, 1971)
- 3) クラーク (Clarke, 1992)
- 4) 環境の防犯設計理論に対する疑問

2. 日本における事例研究

3. 集合住宅の安全計画

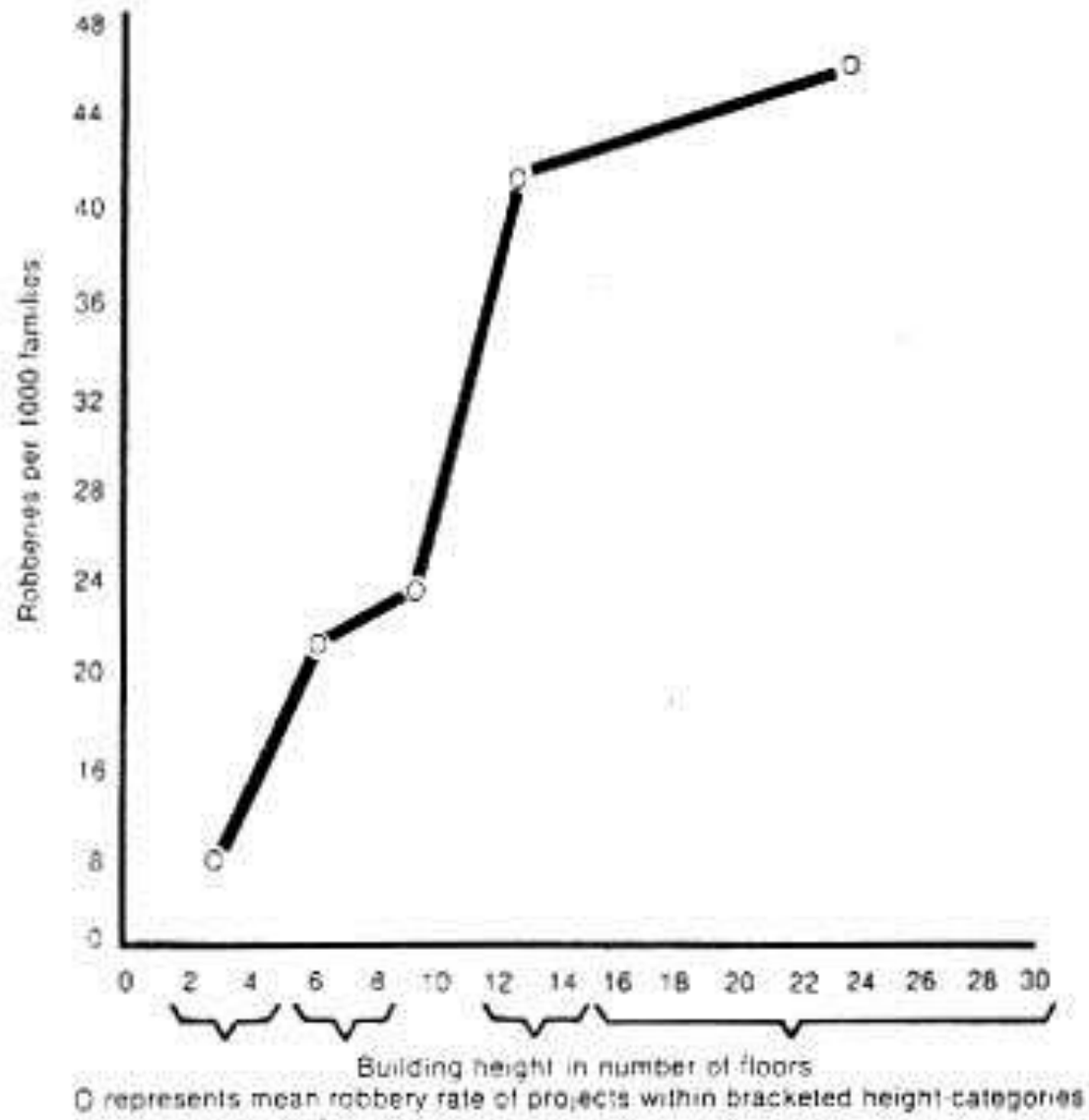
1) ニューマン(Newman, 1972)

Diffensible Space: 守りやすい空間



犯罪件数

犯罪件数と建物高さ



階数

Frequency of robberies by building height
Source: New York City Housing Authority Police Statistics-1969

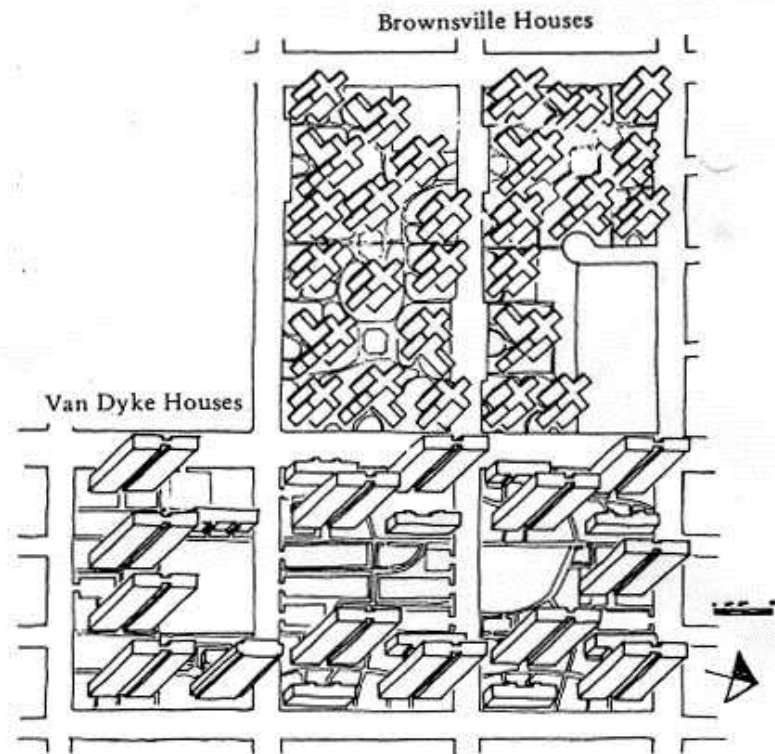
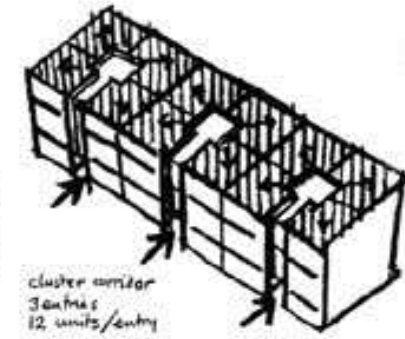
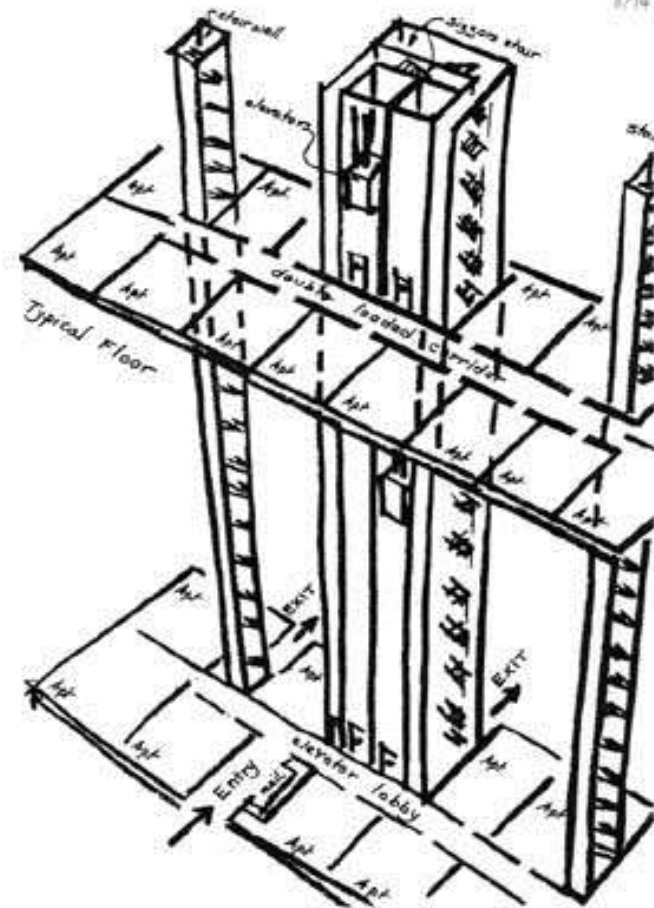


Fig. 4.3 Site plan of Brownsville and Van Dyke houses. (Reprinted with permission of Macmillan Publishing Co., Inc. from *Defensible Space* by Oscar Newman. Copyright © 1972 by Oscar Newman.)

Table 4.2 Comparison of Crime Incidents

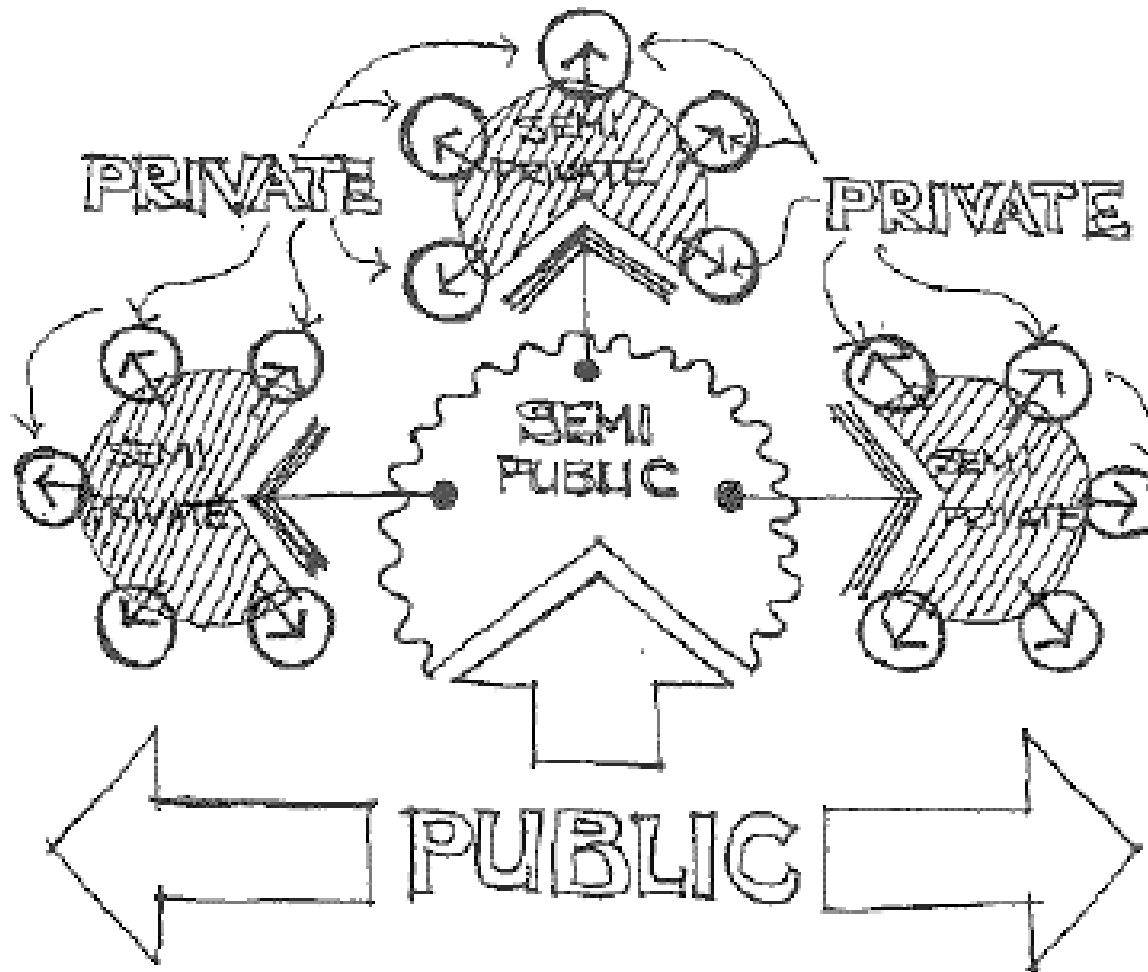
Crime incidents	Van Dyke	Brownsville
Total incidents	1,189	790
Total felonies, misdemeanors, and offenses	432	264
Number of robberies	92	24
Number of malicious mischief	52	28

SOURCE: New York City Housing Authority Police Records, 1968. Reprinted with permission of Macmillan Publishing Co., Inc. from *Defensible Space* by Oscar Newman, p. 47. Copyright © 1972 by Oscar Newman. First published in Great Britain in 1973 by The Architectural Press, London.



(1) 領域性 (territoriality)

- ・テリトリーの階層化(public---private)
境界の明示





分節化、マーカールの明確化



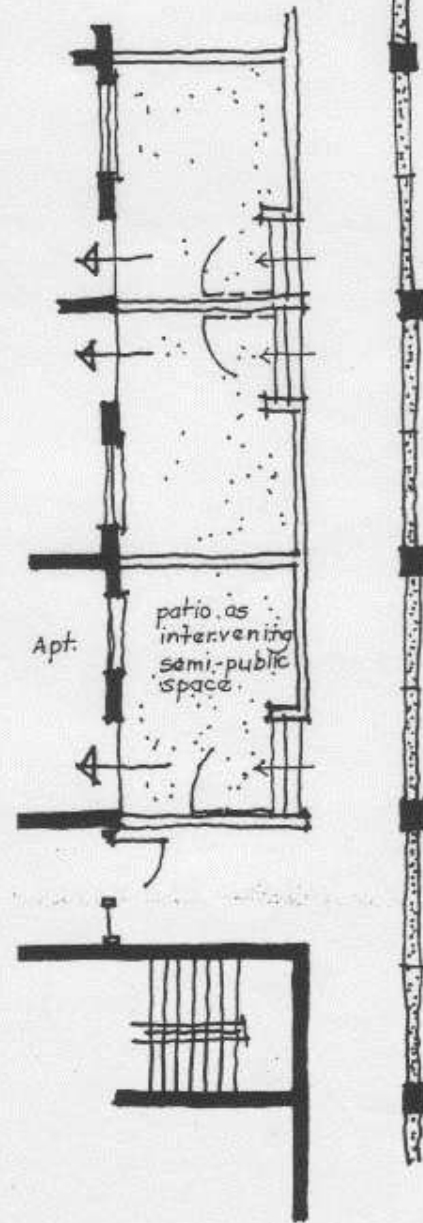
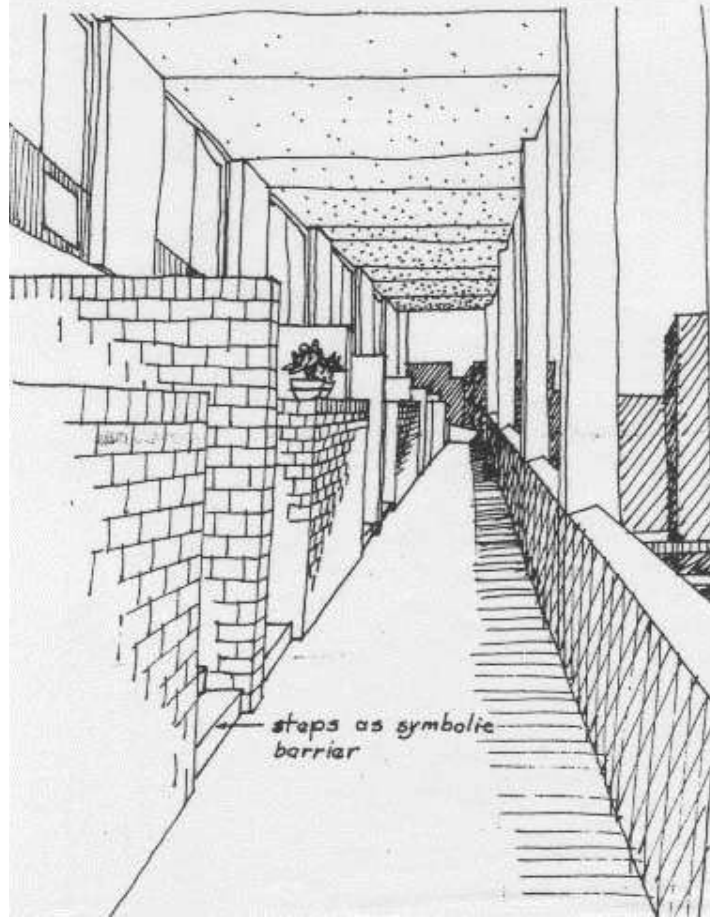
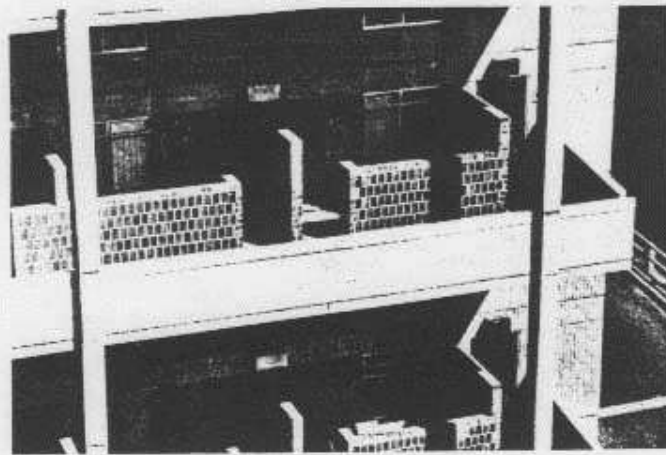
メンテナンス、空間に対する支配



(2) 自然監視 (natural surveillance)

- ・住民の視線
- ・高層化の問題 (EV、Open Space)





(3) 敷地周辺の環境とイメージ

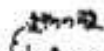
- ・利便性と環境



下町？

な中の路地のふ稲荷様と、
ふ地蔵さまの坊主図。

面は11.2に示す地盤構造は、地盤に対して
おかれて、そのにおきには、
住んで、そのにおきには、
おきには、



① ② の積に
 ③ という風にふかいている。



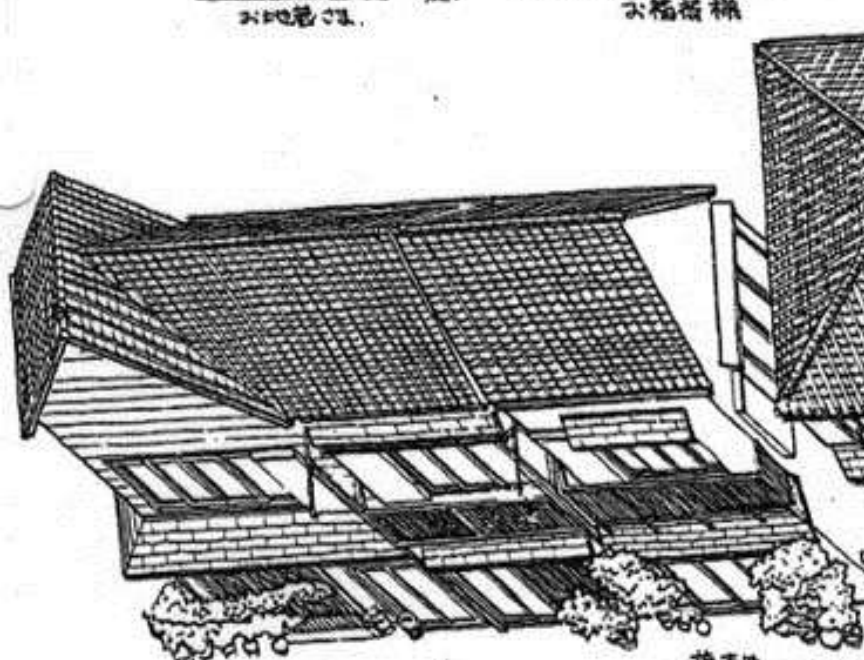
ひら入り
の外村
の中心
小田原
宮城
る。
そこに
小田原
宮の
新橋

ふ稲苗様



総馬
千両半
五兩に
おき立の
下りものが、
—ここから
上は水
道。下
はコン
クリッ
ト製。

実は、この
良屋を造る
時に出土し
たお地蔵
様の頭部
が置かれて
いる。



防災用水の貯に
今では 木戸で通られていりける。

さすかの 炭屋 及び 今では、
トウモロコシ 炭の 金 炭 掘り 覆われて
いなくなる。

砂、こけりた長尾に
 おて形成される湖
 地盤は、金魚の
 といわれている。
 TVアンテナあり、噴水
 噴出、夏根の植
 栽あり、噴水の東
 とはいはる物干あり。
 向い、分岐の熱湯あり
 砂こけりた長尾の
 砂こけりた長尾

田尺
五寸
有餘

2012
12月10日
12月10日
12月10日
12月10日
12月10日

[illegible]

下口、
船工
可受
其害

この二つの成長度の呼称は図は二つに別れていて、(a)と(b)と。

植木は
植木鉢に付植とされて
いろいろある。ホリハサや 灯籠の宮庭など、そのまゝ利用されている。

[illegible]



高層居住？

2) ジェフレイ (Jeffrey, 1971) :

ジェフレイ (Jeffrey, 1971) の著書「環境デザインを通じた防犯」(Crime Prevention Through Environmental Design) を原点とする考え方は CEPTED (セプテッド) と呼ばれ、欧米で広く知られ実践されている。

環境のメンテナンスや組織的・機械的な監視、アクセスの制限、孤立を避けるコミュニケーションの重要性

3) クラーク (Clarke, 1992) :

状況的犯罪予防の考え方

(Situational Crime Prevention)

- 「日常行動理論」(場所の利用スケジュールを適切にして犯罪者との接触を避ける)
- 「合理的選択理論」(犯罪者は犯行で得られる利益とコストとを天秤に掛けて判断する)

環境の防犯設計理論に対する疑問

- 自然監視・機械監視によるプライバシーの侵害に対する批判
- 自然監視の邪魔になるとして切られる公園や街路の樹木⇒景観破壊
- 犯罪転移の問題⇒ある建物や町が防犯的になれば、犯罪者は別のターゲットを探すだけで、総量としての犯罪数は減らないという批判

ハードとソフトの協働

物理的な構築環境の設計

+

人的な活動



安全・安心な環境

2. 日本における事例研究

3. 集合住宅の安全計画

- マンション管理の防犯マニュアル
- 超高層団地の安全計画